

灵隠寺（靈隠寺）

杭州の最も有名な観光名所の1つで、西湖の西側、北峰山の麓にある寺院です。杭州市内の現在まで残っている遺物の中では最も起源が古く、西暦326年に建立されており、中国最大の木造の釈迦像があります。

飛来峰石窟と靈隠寺の2つの部分からなりたつ。

杭州観光と言えば、西湖、靈隠寺、六和塔というのが最も有名。

慧理法師（えりほうし）西晋（西暦317～420）の時代の西インドの僧で、のちに中国に来て靈隠寺の開祖と、なりました。

西晋の成帝の咸和元年（326年）に、慧理法師は中国の中原地区（中国古代史の背景となった地域）から杭州に移り、最初は武林山（ぶりんさん）、つまり今の靈隠寺のあたりに住んでいました。法師はそこにあった小さな山を見て、これは中インドの靈鷲山（りょうじゅせん）と瓜二つではないか、いつここに飛んできたのだろうと驚きました。お釈迦様ご生存の頃、多くの聖霊たちが隠遁したところだ、この山もそうなのだろうかとお思いになりました。インドの靈鷲山には、かつて白と黒の二匹の猿が住んでいました。慧理法師はこの山に行くと大声で叫ぶと、やはり、靈鷲山の猿のような、二匹の猿がキーっという声とともに飛び出してきました。

それで、法師はこの山を「飛来峰（ひらいほう）」と名付けました。慧理法師はここに寺を二つ建て、一つは飛来峰の下の靈鷲寺、そして、咸和三年（328年）には、北高峰の下に靈隠寺を建てました。咸和五年（330年）には、「天竺翻經院」（原名「靈山寺」）を建て、続いて、靈峰寺と靈順寺の二つの寺も建てました。この地域に寺を全部で五つ建てたこととなります。しかし、千六百余年にわたって、今まで保存されてきたのは靈隠寺だけです。それは靈隠寺が昔から中国歴代の禅宗の道場として有名であったからでした。

この飛来峰の下に岩穴があり、慧理法師はよくこの岩穴で坐禅をしたので、この岩穴は「理公の岩穴」と当時、称されていました。理公の岩穴の中の「金光洞」という洞窟の中に、元代の書家、周伯琦（しゅうはくき）が書いた『理公岩記』（りこうがんき）という碑文が保存されています。

全部で211字あり、慧理法師がこの岩穴で坐禅したことを記しています。碑文には、「理公岩、晋高僧慧理师尝燕寂焉（理公岩、晋の高僧、慧理法師嘗て燕寂す焉）」という言葉が書いてあります。明代の万歴18年（1547年）、再建した慧理法師の記念塔、「理公塔（りこうとう）」は今でも飛来峰の龍泓洞（りゅうこうどう）の隣にそびえ立っています。慧理法師は晩年に、西湖に隣接した西溪（せいけい）という湿地帯の石人嶺の下にある夕照庵（せきしょうあん）に隠居したと言われています。



靈隠寺の大雄寶殿

飛来峰石窟



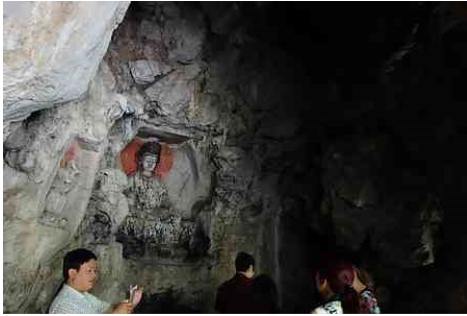
冷泉溪



祖師慧思祭る塔



山全体が石塔です



洞穴の中にも石造が？



布袋様と十八羅漢

浄慈寺 西湖の南側、雷峰塔の向かい側にあります。



三天竺寺（法鏡寺） 靈隱寺から少し離れた場所にある3つの古寺です。何度も建て直されているようですが、最も古いお寺が三天竺と呼ばれる法鏡寺で、元々は靈隱寺の一部だったようです。

忠天竺（法浄寺） 三天竺路を靈隱寺側から歩いて行くと、やや距離はありますが、三天竺（法鏡寺）、忠天竺（法浄寺）、上天竺（法喜寺）の順に寺を巡ることが出来ます。



三天竺（法鏡寺）



忠天竺（法浄寺）



上天竺（法喜寺）